２０２０年度　東山梨教育協議会研究の概要

研究推進委員長　　日野原　和貴

Ⅰ　はじめに

東山梨教育協議会は，東山梨地域全体の教育振興を願って，1964 年（昭和 39 年）に校長会・教頭会・教連の三者が，県教委，各地教委の協力により設立された。これまでの活動の中で，私たちは「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探究」を目標に，今日的な課題の解決に向けてとりくんできた。また，管理職・教諭・専門職員が協同して組織研究を進め，東山梨地域の学校教育の向上，教職員個人の質的な向上，教職員相互の強固なネットワークの構築を図り今に至っている。

一方で，子どもたちや学校教育を取りまく状況をみると，多くの課題が山積している。情報化やグローバル化は急速に進み，様々な分野において，インターネットや人工知能の普及により，今後の社会生活は加速的に変化していくことが容易に想像できる。さらに今年度は，新型コロナウイルス感染症の拡大にともなう全国一斉休校の影響により，子どもたちに当たり前に保障されていた「学校に登校する」という権利が脅かされる状況となった。さらに学校再開後の今年度は，2017 年 3 月に告示された新学習指導要領が，小学校で全面実施され，その内容の履修と，長期に及んだ一斉休校による授業時間の減少を補填するため，多くの学校行事の中止・削減，長期休業の短縮などによる，授業時間の確保にどの学校も苦労を強いられた。そのような中で，道徳や英語の教科化・プログラミング教育の導入など，教職員の戸惑いや保護者の不安，目の前の子どもたちのゆとりある学びに大きく影響を与えることとなった。複雑で変化の激しい時代であるからこそ，地域や目の前の子どもたちの実態に応じた指導過程を確立し，自主創造的に子どもたちの学びの質を高めていくことは今まさに必要不可欠である。

加えて，子どもの貧困問題も新型コロナウイルスの影響を受け，さらに深刻な状況として捉えられている。家庭の経済格差が子どもたちの学力格差につながっていることが様々な調査から明らかになり，教育費の負担軽減をさらに図っていくことが求められる。私たちは家庭環境や住んでいる地域に左右されず，学校に通う子どもたちの学力が平等に保障されるよう，日々研鑽を重ね指導に当たらなければならない。さらに，私たち教職員を取りまく環境にも，教職員の大量退職・大量採用等の影響，教職員の多忙化等の課題が多い。今年度は，それらの改善に向け，新しい形の研究体制の構築，発展的再編を行い，課題改善へと歩を進めることができた。もちろん，時代と共に教育活動も変化していくことが必要だが，ただ時代の変遷に流されるのではなく，我々は，教育の不易と流行をしっかりと捉えた教育研究を行っていかなければならない。今後さらに，子どもたちを中心に据え，学校・家庭・地域に根ざした「心豊かなふれあいのある教育」を，東山梨の教職員が一丸となってめざしていきたい。

Ⅱ　研究の推進について

1　研究の目標

「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探究」

2　研究推進の基本的方針

(1) １９６４年発足より半世紀以上が経過した歴史的重みや意義を重視し，東山梨の抱える今日的な教育課題解決のための研究を推進する。

(2) 教育課程（カリキュラム）の自主創造的な編成にとりくむ。

(3) 各学校の校内研究と教協研究との有機的結び付きとその充実を図る。

(4) 保護者・地域住民との連携を強化する。

(5)組織研究の意義を理解し充実発展させるために，積極的な参加意識の高揚と組織的参加体制の確立を図る。

(6)平和・人権・環境教育を積極的に推進し，生命の尊さや平和の大切さの意識高揚を図る。

3　研究の組織づくり

研究の基底は校内研究にあるとの認識に立ち，課題の本質に迫り，解決の方法・内容を考えたり，専門的力量を高める教育研究部会と，同じ地域に勤めるものが課題を共有し，連携をはかりながらその解決策を探るブロック交流研究会，さらに特別委員会を設け教協研究を推進した。以下，具体的に掲げる。

（1）教育研究部会

共通テーマ：「人間性豊かな子どもの育成と教科教育課程の自主創造的な編成をめざし，教育の本質を実践的に追究する。」

	部会名		部長	学校名	テーマ
1	国語科教育	小学校	田邉珠紀	東雲小	思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導 ～言語活動の充実を通して～
		中学校	武井善史	勝沼中	思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導 ～言語活動の充実を通して～
2	外国語教育		広瀬　剛	山梨北中	意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成 ～表現につなげる活動の工夫～
3	社会科教育	小学校	三澤　瞬	日下部小	科学的社会認識を育てる授業研究 ～主体的・対話的で深い学びの創造～
		中学校	金森　淳	塩山北中	市民を育てるための「主体的・対話的で深い学びを」どのように実現するか
4	算数・数学科教育	算数	宮澤みさ子	加納岩小	つくり，いかす算数授業の創造
		数学	武井松里子	山梨北中	わかる授業の工夫と授業実践 ～基礎学力の定着と考える力の育成～
5	理科教育	小学校	今澤比呂樹	日川小	わかる理科授業の創造 楽しく学び 自然を豊かにとらえる理科授業をどのようにすすめるか
		中学校	奥山寿夫	大和中	わかる理科授業の創造 ～考える力の育成と教材教具の工夫～
6	音楽科教育		武藤真由美	勝沼中	確かな学び　広がる音楽 知覚・感受をもとにした音楽的思考力・判断力・表現力の育成
7	美術・図工科教育		小澤朋子	塩山中	一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか
8	技術科教育		岡田　強	塩山中	未来社会を展望し生活を創る力を育てる技術家庭科教育
9	家庭科教育		向山栄子	塩山中	未来社会を展望し生活を創る力を育てる技術家庭科教育
10	保健体育科教育（小学校）		向山　澄	日川小	教材の本質をふまえた体育指導のあり方 ～ゲーム・ボール運動を通して～
11	保健体育科教育（中学校）		平野淑江	松里中	基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫 ～主体的・対話的で，深い学びを通して～
12	保健教育		吉川美千代	山梨北中	自らの健康づくりに意欲的に取り組む子どもをどう育てるか
13	生活科教育		武井美奈子	加納岩小	子どもが生き生きと学ぶ生活科

				～地域とのかかわりを生かした活動を通して～
14	自治的諸活動と生活指導	堀井ますみ	祝小	一人ひとりの自立をめざした学級づくり
15	特別支援教育	小林由紀子	井尻小	自立をふまえて（どの子も共に生き，共に育つ） ～一人ひとりの実態をふまえた支援・指導のあり方～
16	福祉教育	堀内美紀	大藤小	学校教育における福祉教育のあり方を探る
17	食教育	福島沙織	山梨南中	食生活を考える ～子どもたちのより良い食習慣づくり～
18	平和・人権教育と国際連帯	飯室　林	日下部小	平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして
19	環境教育	向山　潤	山梨小	「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方 ～身近な環境や自然に対して主体的にかかわる子どもの育成～
20	情報化社会と教育・文化活動	畠山　忠	玉宮小	情報活用力を高める研究
21	進路教育	若月敬二郎	後屋敷小	一人ひとりにあった，生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか ～小・中における授業実践を通して～
22	保護者・地域住民との連携	武藤有希	日下部小	地域とともにある学校づくりをめざして
23	教育条件整備	池田はるな	大和中	豊かな教育を子どもたちに
24	カリキュラムづくりと総合学習	小宮山公仁	塩山北小	豊かな学びを創造するゆとりある教育課程の編集と実践
25	教育評価	小林光三	笛川小	「生きる力」をはぐくむ評価のあり方

（2）ブロック交流研究部会

共通テーマ；「地域が抱える教育課題を共有し，解決に向けた交流を行い，同一地域の小中連携や小中の系統的な教育のあり方を追究する。」

ブロック名		ブロック長	ブロックテーマ
山梨支会	山梨南ブロック	渡邉満智子（山梨小）	○主体的で対話的な深い学びの工夫についての小中連携。
	山梨北ブロック	萩原　修（山梨北中）	○小中の連携を深め，山梨北ブロックの児童・生徒の指導に生かす。
	笛　川ブロック	上野　瞳（笛川小）	○義務教育９年間を見通した小中連携について。
甲州支会	塩　山ブロック	平山沙織（塩山北小）	○新学習指導要領の全面実施を受け，小中の系統性をつかみ，授業にいかす。
	塩山北ブロック	相澤由佳（大藤小）	○小中の連携をはかり，塩山北中学区の子どもたちを育てていこう。
	松　里ブロック	山下史江（井尻小）	○同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために，小・中・地域の交流と連携を深めよう。
	勝　沼ブロック	相川和彦（勝沼小）	○今年度は設定しない
	大　和ブロック	飯室美華（大和小）	○小中連携を深め，児童生徒の教育課題についてともに考えよう。

（3）　特別委員会

ア　教育環境研究特別委員会（委員長 植原　彰　委員…校長会・教頭会・教連・事務職）

イ　児童生徒連絡協議会（会長 笛川中学校生徒会会長 髙橋玲緒　顧問教員 布施　洋）

4　部会運営

本年度は，教育研究部会 25 部会，ブロック交流研究会 8 部会の成立をみた。教育研究部会は年間８回（新型コロナの影響で 1 回中止），ブロック交流研究会は年間２回設定（新型コロナの影響で１回中止）し研究活動を行った。年間計画等，しっかりとした見通しの上にたっての研究活動を更に推進していくことが重要である。

5　研究日と研究集会

毎週水曜日を研究日とし，地区教協研究日以外は校内研究にあてる。厳に校内行事等を入れずに研究時間を確保するようにしたい。春季・秋季・冬季教育研究会は新型コロナウイルスの影響で一同に集まっての開催はできなかった。

6　研究推進地区

山梨支会を研究推進地区とし，山梨南中学校を会場に各種教研活動を行う計画であったが，新型コロナウイルスの影響で一会場に集まっての開催はできなかった。

7　教育講演会

※新型コロナウイルスの影響で中止

Ⅲ　今後の課題

新学習指導要領への対応と同時に，アフターコロナの時代における学校教育，特別支援教育，食教育，キャリア教育，外国語教育，道徳・プログラミング教育，GIGA スクール構想など時代のニーズにあった教育活動を進めていく必要に迫られている。さらに，教職員の多忙化改善の視点に立った新しい形の研究体制のもとで，様々な教育課題解決に向けて，さらに密度の濃い研究活動をすすめて行く必要がある。そのためにも，文部科学省からの指導内容をそのまま踏襲するようなトップダウンの教育実践ではなく，目の前の子どもたちの実態を的確に捉えた上で，本当に必要とされる教育とは何かをもう一度見つめ直す必要がある。東山教育の長い歴史の中で，先輩方が積み上げてくださった私たちの組織研究に誇りを持ち，その意義を会員各自が自覚する中で，東山教育がさらに充実・発展するよう努めていきたい。

〈東山梨教育協議会役員〉

役職名	氏　　名
会　長	小川正仁（勝沼小）
副会長	土屋弘明（東雲小）　岩下　城（山梨小）
事務局	日野原和貴（加納岩小）［研究推進委員長・事務局長］ 平山直樹（勝沼中・教育会館）［事務局次長］
委　員	小川正仁（勝沼小）　雨宮義仁（八幡小）　永田恵子（後屋敷小） 甘利志賀峰（祝小）　志田市造（松里小）
	土屋弘明（東雲小）　三枝敏明（山梨北中）　大村健一（勝沼小） 倉田憲一（山梨南中）岡　輝彦（日下部小）
	岩下　城（山梨小）　内藤　建（笛川小）　日野原和貴（加納岩小） 広瀬竜太（山梨北中）　平山直樹（勝沼中・教育会館）
会　計	広瀬竜太（山梨北中）
会計監査	古屋真吾（笛川中）　依田久幸（塩山中）　前田大輔（塩山中）